

琉球海邦国体での閉会式の最中、神秘の金環日蝕が到来、一瞬感動的な静寂に包まれた。両国秋場所では放駒部屋大乃国の横綱への昇進、秋爽やかである。

1898年フランス内科医 Dieulafoy により“Ex-ulceratio simplex”として記載されたいわゆる Dieulafoy 潰瘍は緊急内視鏡の普及した現在、ともに関心を集めている。原典に忠実になれば、当然切除胃による病理形態学的検索により、粘膜下層の異常に太い動脈の破綻を証明しなければならない。しかし近年、内視鏡的止血法の進歩により、Dieulafoy 潰瘍を含め出血性潰瘍の多くは内視鏡的に止血され、切除されるには至っていない。ここ数年、Dieulafoy 潰瘍と診断される症例の数は著しく増加しているが、これは非手術例の

増加によるところが大きい。今後、この傾向は更に強まるものと予想できるが、この背景において、Dieulafoy 潰瘍を改めて見つめ直すことも意義あることであろう。

本症の診断の曖昧さを認識することから、その特徴的な内視鏡的形態によりどこまで正しい診断が可能か、更には本来の Dieulafoy 潰瘍の出血は果たして内視鏡的止血で十分であるのか、もっと飛躍して、Dieulafoy 潰瘍の疾患概念は、その概念はともかく、臨床的に果たしてその蓋然性が存在するのか、厳しく問われるところである。

今回、Dieulafoy 潰瘍の特集が企画された。まさに時宜を得たものであり、これにより、ここ十年暫くは、Dieulafoy の特集の必要はないであろう。

胃と腸

11月号(第22巻・第11号)予告

発売予定 11月2日
定 価 1,700円

主題／消化管のアミロイドーシス(1)

序 説	消化管のアミロイドーシス……………早期胃癌検診協会	白 壁 彦 夫
主 題	消化管アミロイドーシスの診断過程……………宮崎医大・1内	吉田 隆亮・他
	消化管アミロイドーシスの病理……………山口大・1病理	内野 文彌・他
	胃・十二指腸アミロイドーシスのX線・内視鏡診断……………山口大・1内	竹本 忠良・他
	胃アミロイドーシスの形態的検討……………名大・2内	中澤 三郎・他
	消化管アミロイドーシスのX線診断……………鹿児島大・2内	政 信太郎・他
	アミロイドーシスにおける小腸のX線像……………九大・2内	飯田 三雄・他
	消化管アミロイドーシスの生検診断……………松山日赤・病理	岩下 明德・他
今月の症例	虫垂悪性粘液瘤の1例……………国立がんセンター・放診	石川 勉・他
初心者講座	色素内視鏡検査法……………京都第一日赤・2内	多 田 正 大
病理学講座	胃—組織所見と肉眼所見との対応、病変の再構築……………浜松医大・病理	喜 納 勇
研 究	全身性アミロイドーシスにおける胃のアミロイド沈着について……………信州大・2病理	崔 進・他

胃と腸 (第22巻 第10号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

☎ 受付台 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5714

販売部直通 (03) 817-5659

1987年10月25日発行(毎月25日発行)

1部定価1,700円(配送料80円)

年ぎめ予約購読料19,080円(送料弊社負担)

FAX (03) 815-7802

振替口座 東京7-96693番

印 刷 所 永和印刷(株) ☎ (03) 813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎ (03) 814-5771

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1987, Printed in Japan.

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権の侵害となることありますので御注意下さい。

(担当)窪田・長谷川・荻原・大竹